

進む高齢化と西部移動

カナダが一九八一年七月一日、十年ぶりに行なった本格的な国勢調査の結果が、徐々に明らかになってきた。

それによると、カナダの総人口は二千四百三十四万三千八百八十人で、中間調査が行なわれた一九七六年と比べて五・九パーセント増えた。七一年からの増加率は一二・九パーセントで、十年間としては一九三一—四一年(一〇・九パーセント)に次いで低い。

州別の人口は、最大がオンタリオ州で全体の三五・四パーセント(七一年は三五・九パーセント)、二位がケベック州で二六・四パーセント(同二七・九パーセント)を占めた。両州の人口を合わせると全体の六一・八パーセントにのぼるが、七一年の六三・八パーセントと比べると大きく減った。ニュー・ブランズウィックなど大西洋側四州の人口は、十年間で全体の九・五パーセントから九・二パーセントに落ちた。一方、マニトバ、サスカチュワン、アルバータ、ブリティッシュ・コロンビアの四州とユーコン、北西の二準州は、今や全人口の二八・九パーセント(七一年は二六・八パーセント)を占め、国内人口の西部移動を印象づけた。

都市の中で人口増加が最も著しいのは、やはり西部カナダのカルガリー(十年間で二五・七パーセント)、エドモントン(一八・一パーセント)、サスカトゥーン(一五・三パーセント)などで、トロントは七・〇パーセント、モントリオールは〇・九パーセント伸びただけだった。人口動態の変化で一番目立ったのは、国民の高齢化。例えば、十五歳以下の人口が五年間で七パーセントも減ったのに対し、六十五歳以上は一七・九パーセントも増えた。全体に占める六十六歳以上の比率は、九・七パーセント(七六年は八・九パーセント)に達している。

高齢化が進んだ結果、メジアン(中間)年齢は、一九七六年の二七・八歳から五年間で二九・六歳に上昇した。メジアン年齢とは、全人口の中央値で、今世紀初めには二十歳強だったのが、出生率が低下した一九三〇年代の大恐慌時代に二十七歳にはね上り、一九六一年にはベビ

ブームのために二十六・三歳に下がっていた。この中央値は出生率が急上昇しない限り、今後も上昇し続け、二〇〇〇年には三十六歳に達し、二〇三一年には一人の年金生活者を二人の労働者が支える計算になるという。

七六年の中間調査で初めて明らかとなった都市から農漁村へのＵターン現象は、八一年の国勢調査ではさらに顕著になった。七六年から五年間で、農漁村人口は八・九パーセント増えたが、都市人口はおよそ半分に近い五パーセント増にとどまった。非都市人口の全体に占める比率は約二五パーセント。

Ｕターン現象は、農業人口にも反映し、一九三〇年代以来初めて、減少に歯止めがかかった。農業人口は四十八万二千二百七十五人。

職業も大きく変化した。七一年からの十年間に法律やソーシャル・ワーク、マスメディアなど社会科学的分野で働く人は一三八パーセント、管理職で一八バ

		増加率 (1971/81)	
総人口		24,343,180	12.9%
		男12,068,290	
		女12,274,890	
ブリティッシュ・コロンビア		2,744,467	25.6%
アルバータ		2,237,724	37.5%
サスカチュワン		968,313	4.5%
マニトバ		1,026,241	3.8%
オンタリオ		8,625,107	12.0%
ケベック		6,438,403	6.8%
ニュー・ブランズウィック		696,403	9.7%
ノバスコシア		847,442	7.4%
プリンス・エドワード・アイランド		122,506	9.7%
ニューファンドランド		567,681	8.7%
ユーコン準州		23,153	25.9%
北西準州		45,741	31.8%
公用語			
英語のみ話す		16,122,900	11.4%
仏語のみ話す		3,987,240	2.78%
英仏両語を話す		3,681,960	26.96%
いずれも話さない		291,395	-8.76%
母国語			
英語		14,918,445(全人口の61%)	5.6%
フランス語		6,249,095(//)	25.6% 6.1%
宗教			
カトリック		11,402,605(全人口の47.3%)	
プロテスタント		9,914,580(//)	41.2%
ユダヤ教		296,429(//)	1.2%
東方正教会		361,565(//)	1.5%

ーセント、芸術や文学、レクリエーション分野で一〇五パーセント、科学、数学、エンジニアリングなどの分野で七二パーセントも増えた。もっとも多くの人が従事しているのは事務職で全労働人口の一八パーセント(二百十九万人)。サービス分野(一二二パーセント)、セールズ分野(九パーセント)がそれに続いている。

これまで男の仕事とされていた分野への女性の進出が目ざましく、七一年と比べて女性のエンジニアは五倍、弁護士は六倍、計理士は三倍、運転手は四倍も増えた。

大学卒業者の数は成人全体の八パーセント、約百五十万人に達した。一九七一年の四・八パーセント、七十一万九千人のおよそ二倍である。教育程度が最も高いのはユーコン準州で、大学進学率は四五・八パーセントに達している。アルバータ州(四一・五パーセント)、ブリティッシュ・コロンビア州(四〇・四パーセント)がそれに続いた。

英仏二つの公用語のうち、英語のみを話す人口は十年間で一一・四三パーセントも増加したが、フランス語だけでは話せないと答えた人は二・七八パーセントしか増えていない。英仏両語とも話せる人は二六・九六パーセントと大幅に増えており、政府の二国語使用政策(バイリンガルイズム)が浸透してきたことを物語っている。一方で、いずれの公用語も話せない人は、八・七六パーセント減った。

カナダにおけるフランス語圏の中心で、